

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
心理と行動	NLA21_001	選択	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
高田 毅	教員控室	t.takada	随時 Teams で質問等受付		
授業の目的・概要	<目的>心理学の全体像を理解し、自己理解、他者理解に生かせるようにすることを目的とする。日常生活、ひいては看護過程に応用するための基礎的理解を身につけることが目標である。 <概要>同時双方向授業（遠隔授業）で展開する。心理学の各領域を概観し、自己理解、対人援助に応用できるよう具体例を交えて解説する。精神看護の基礎としても役立つように構成する。Teams のコメント機能を用いた双方向授業（擬似ディスカッション）を通して理解を深める。				
授業形式・方法	☐ 対面授業 ☒ 遠隔授業（双方向型） ☐ 遠隔授業（自主学習） ☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ PBL ☐ ケーブルワーク ☐ その他（ ） ☐ 反転授業 ☐ プレゼンテーション ☒ ディスカッション・ディベート ☒ 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	発言を求めながら進めるので、積極的に参与すること。 講義中の質問・疑問・関心・感想はその都度発言し、授業内で消化すること。 体験は人それぞれなので、自分の固有の体験に正直になり、学ぶにすることが重要である。				
教科書	必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	公認心理師の基礎と実践 第2巻 心理学概論 /編/繁橋算男 /遠見書房 ヒルガードの心理学 第16版 /著/Susan Nolen-Hoeksema他 監訳/内田一成 /金剛出版 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法 /監/日本専門看護師協議会 /日本看護協会出版会				
外部教材	なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	心理学の諸分野の基本的な概念を理解し、体系的に説明できる。			HSU(2)	
②	心理学に基づく対人援助の方法と実際について理解し、体系的に説明できる。			HSU(3)	
③	本講義で習得した内容を自分の経験と結びつけ、自分の専門性に応用できる。			HSU(1)(5)(6)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間（時間）		
1	オリエンテーションを行う。 心理学概論・心の生物学的基盤について学ぶ。	同時双方向型授業	受講の意志を明瞭にする。授業後にコメントシートを提出する。	2	
2	心理学の歴史と研究法について学ぶ。	同時双方向型授業	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
3	感覚・知覚について学ぶ。	同時双方向型授業	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
4	学習・記憶について学ぶ。	同時双方向型授業	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
5	言語・思考について学ぶ。	同時双方向型授業	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
6	動機付け・感情について学ぶ。	同時双方向型授業	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
7	心の発達について学ぶ。	同時双方向型授業	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
8	知能について学ぶ。	同時双方向型授業	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
9	パーソナリティについて学ぶ。	同時双方向型授業	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
10	社会と個人について学ぶ。	同時双方向型授業	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
11	心の健康と不適応について学ぶ。	同時双方向型授業	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
12	臨床心理学について学ぶ①。 臨床心理学の概論について学ぶ。	同時双方向型授業	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
13	臨床心理学について学ぶ②。 心理療法の三大理論について学ぶ。	同時双方向型授業	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
14	臨床心理学について学ぶ③。 応用：セルフケア理論について学ぶ。	同時双方向型授業	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
15	まとめとフィードバックを行う。	同時双方向型授業	全体の学びをまとめる。授業後にコメントシートを提出する。	6	
試	レポート試験 達成度評価・評価のポイントを参照				

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	70	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	10	20
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	10	20
	コミュニケーション力	0	10	0	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	20	0	0	10	30
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
レポート	①	✓	理解度を問う応用問題などから構成される。知識を用いて思考、表現ができていかどうか、学生固有の体験から学ぶことができていかどうかを評価する。また、具体的に丁寧に書かれているかどうかを評価する。			レポートを返却し、解説とフィードバックを行う。	
	②	✓					
	③	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
その他	①	✓	毎回の授業後にコメントシートを記入する。具体的に丁寧に書かれているか、自分の日常の体験と繋いで理解できているかを評価する。 (2点×15回=30点)			コメントシートに教員がコメントを加えて返却する。 必要に応じて次の授業で補足する。	
	②	✓					
	③	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教 員 の 実 務 経 験	臨床心理士として15年、公認心理師として4年の臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	Microsoft Teams を用いて、発言やチャットを随時求めながら双方向的に授業を展開する。個人情報に配慮しつつ、事例などを用いて具体的なイメージを伝えながら知識を学ぶ。						
そ の 他	授業に参加し、自ら学ぶことが求められる。その点を理解の上受講すること。 Microsoft Teams を用いた同時双方向型授業を行う。 課題ダウンロードなどを行うので授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を奨励する。 尚、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。						